

## みやぎ生協 復興夏祭りを石巻で開催

### 地元ゆかりの出演者・参加者が元気を発信

開会にあたり、自らも被災したみやぎ生協地域代表理事の大和きよ子（やまときよこ）さんから「1年5カ月過ぎましたが、皆さん、いまでも一生懸命頑張っていると思います。今日は日頃の悩みを忘れ、楽しい時間を過ごしてください」と同じ被災者としての思いを込めたあいさつがありました。

最初のパフォーマンスは、石巻出身のタレント本間秋彦（ほんまあきひこ）さんの「おらほのラジオ体操」です。流れてきたメロディはあの有名なラジオ体操第一。ところがセリフは「いっず、ぬー、さん、すうっ！」と直球の石巻弁。「ウデば回すべっちゃー」「すんこきゅー!」。みんな笑いながら腕を上げたり、深呼吸したり。会場が一気に盛り上がりました。

次に登場したのは、女川潮騒太鼓轟会です。一度は津波で壊れた太鼓ですが支援を受けて修復しました。同時に「また演奏したい」という声が出るようになりました。避難生活が続く中で演奏をしていいものかどうか、代表の齋藤成子（さいとうしげこ）さんは迷いましたが「元気で残った子どもたちのために歩き出そう」と決意しました。太鼓の練習を始めると避難所から住民が出てきて声援を送ってくれました。「色々な支援を頂いて今日があります。太鼓の演奏を通して女川の元気な姿を見ていただきたい」と齋藤さん。会場には「女川の太鼓を目当てに来た」と言う人も多く、力強く響き渡る太鼓の音に大きな拍手を送っていました。



小野寺さんの長男勝渡（かつと）くんは太鼓が大好き。

女川復興太鼓の演奏に合わせ

太鼓をたたく真似を披露してくれました。

仙台出身のシンガーソングライター砂野博明（すなのひろあき）さんのコンサートでは、みんなでハミングをする曲もあり、ラーラーの明るい声が客席に広がりました。砂野さんは1カ月前までみやぎ生協南支部の配送担当者でした。パート契約をしながら歌手活動を続け、震災時にはCDを制作販売して義援金を女川に届けました。「震災直後は義援金を集めるなど歌で世の中の役に立ちたいと考えていましたが、いまは初心に戻り、僕の歌で明るく楽しい気分になってくれればと思っています」。

出店ブースでウェットスーツ素材を使った小物入れを販売しているモビーディックは、地元石巻のウェットスーツメーカー。「グッズ製作は仮設住宅で暮らす人たちに手伝って

もらい、復興支援につなげています」と社員の菊田信也(きくたしんや)さんが話してくれました。

カラフルな糸を編みあわせたエコたわしが1個300円で販売されていました。これは牡鹿十八成浜の人たちが、震災後「いつまでも他人の善意に頼ってられない。自分たちで立ち上がろう」とそれぞれ出資金を持ち寄って「牡鹿エコたわし工房海だより」を立ち上げ、製造を始めたもの。現在12人の女性が参加しています。事務局の遠藤信子(えんどうのぶこ)さんは元みやぎ生協の地域理事。

「ちょっと頑張れば生活費の足しになる。これからのことを考えると大切なのはやはりお金。少しでも収入になるよう活動を続けていきたい」と話していました。

「今回の夏祭りの特長は、出演者や出店者の多くが支部や職員のつながりで参加していること」と、石巻支部支部長の斉藤則男さん(さいとうのりお)。

「復興中の石巻はいま、一度散り散りになった地域が仮設で一緒になったり、また離れたりにしている状態。生協が、人と人の縁を通じて、そうした地域の輪をつなぎとめることもできるのではないかと思います」。



地元のサッカーチーム「ベガルタ仙台」のチアリーディングの演技指導など、盛り上がるイベントが盛りだくさん。

### 「大変なのは自分だけじゃない」

内海孝子(うちみかこ)さんは週1回共同購入ステーションを利用しています。夏祭りも「職員さんに声をかけてもらったから、仮設住宅の友だちを誘って来てみたの」と話します。仮設住宅に住み始めてから1年以上が経ちますが、「開成地区は住み心地いいよ～。仮設でもみんなでお茶っこ飲みしたり旅行したり楽しく過ごしてるよ」。でも将来を考えると不安になると言います。「ここを出たらどこに行けばいいんだべね…」。

仮設住宅での暮らしは、気を遣って大変という人もいれば隣近所と仲良く付き合っていますという人もいて様々です。

ラジオ体操と女川太鼓を見に夏祭り会場を訪れた鈴木さん。仮設住宅では午後3時過ぎになると屋外のテーブルにみんなで集まってお喋りを楽しむそうです。「家を無くしたのはみな同じ。話していると、大変なのは自分だけでないな一って思うの」。

小野寺富美(おのでらふみ)さんは、震災後、仮設住宅の集会室で開かれる生協の子育てひろば『ぽんぽこ』に参加し、ママ仲間と一緒に子育てサークルを始めました。夏祭り会場では「見知った顔にいっぱい会って楽しいですね」と顔をほころばせました。

「息子2人とも生協職員」と話す千葉さんは東松島市の仮設住宅に住んでいます。石巻エリアの復興にいま一番必要なことを尋ねたら、すぐに「仙石線(※)が全部通ることと、自分の家だべな」との答えが返ってきました。

やはり仮の住まいではない、本当の「我が家」があってこそその復興なのだということが、皆さんのお話からひしと伝わってきました。

※仙石線／石巻と仙台を結ぶJR線。津波で甚大な被害を受け、2012年8月現在も途中の区間が不通になっている。